

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

4月

1日

大安 柳

旧閏2月11日

土曜

妙法蓮華経序品第一

ろく は ら みつ  
六波羅蜜

「私たち菩薩の修行法」

人々を救いに導き、自らも悟りを目指す人を菩薩といえます。私たち一人ひとりも皆菩薩です。菩薩に与えられた六つの修行法が布施・持戒・忍辱・精進・禅定・智慧の「六波羅蜜」です。「波羅蜜」は「度」と訳し「渡る」の意味です。悟りの世界「彼岸」に渡るための修行なので、春秋の彼岸に六波羅蜜が奨励されますが、六波羅蜜は日常生活と離れたものではありません。日々、六波羅蜜を意識して過ごしましょう。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

4月

2日

先勝 張

旧閏2月12日

日曜

妙法蓮華経序品第一

布施

「他者の役に立ち、他者の喜びが自分のものに」

六波羅蜜の一つ目。

「布施」には、品物を施す「財施」、教えを説く「法施」、他者の苦悩を取り除く「無為施」や、労働力や思いやりのあるしぐさ・行為などを提供する「無財の七施」があります。

布施によって他者の役に立ち、他者の喜びが自分のものになります。そして、施すと同時にその物事に執着する心を捨てることにもなることから「布施」のことを「喜捨」ともいいます。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

4月

3日

友引 翼

旧閏2月13日

月曜

妙法蓮華経序品第一

持戒じかい

「仏さまの戒めを守り、身を慎み、常に反省する」

六波羅蜜の二つ目。

「持戒」とは、仏さまの戒めを守り、身を慎み、常に反省すること。

煩惱に満ち自分勝手な考えのまま過ごしていると、世の中の役に立たないだけでなく、他者に迷惑をかけてしまいます。

仏さまの教えによって、瞋り・貪り・愚痴の「三毒」まみれの心を戒める気持ちを持ち続け、本当の布施をするように努めましょう。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

4月

4日

先負 軫

旧閏2月14日

火曜

妙法蓮華経序品第一

にん にく

## 忍辱

「怒りの気持ちや悪い心を起こさない」

六波羅蜜の三つ目。

「忍辱」とは、平静にして耐え忍ぶこと。

怒りの気持ちや悪い心を起こさないこと。

怒りを抑え冷静でいられたら、おだてられても

自惚れることもなく、どんな境遇にあっても、

道を誤ることはありません。

怒らないために大事なものは、仏さまが私たちを

心配して見守ってくださっているのと同じ深

い思いやりの心を養うことです。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

4月

5日

清明 仏滅 角

旧閏2月15日

水曜

妙法蓮華経序品第一

しょう じん

## 精進

「常に努力を惜しまず」

六波羅蜜の四番目。

「精進」とは、常に努力を惜しまず全力で事に当たること。

「精」とは純粹の意味です。余計なことを考えず、純粹に仏さまの教えを信じ真直ぐに進む。

目の前の損得に振り回されて途中で投げ出してしまふと、何も得ることなく一生を終えることになりかねません。

仏さまを信じて教えを学び精進しましょう。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

4月

6

日

大安 亢

旧閏2月16日

木曜

妙法蓮華経序品第一

ぜん じょう  
禅定

「感情を静め、心を安定させること」

六波羅蜜の五番目。

「禅定」とは感情を静め、心を安定させること。

人は忙しくなると、自分の立ち位置を見失い、

周囲の状況が見えなくなるものです。

忙しくなればなるほど、静かに自分を見つめる

時間などないと思い込んでしまいがちです。

しかし、あえて時間を作って自分を見つめてみ

ると、つまらないことに時間を使っていること

に気づくのではないかと思います。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

4月

7

日

赤口 氏

旧閏2月17日

金曜

妙法蓮華経序品第一

智慧

「物事を正しく見据え、曇りのない判断力を持つ」

六波羅蜜の六番目。

「智慧」とは物事を正しく見据え、曇りのない正しい判断力を持つこと。

心が偏り、自分の都合のよいことばかりを見ていては智慧を磨くことはできません。

心の迷いを解き、物事の違いを見極めつつ、偏ることなく認め合い、その時と場所にふさわしい判断をするよう心がけていくことが、仏さまの智慧に近づく道です。

妙法蓮華經序品第一

爾時文殊師利。語弥勒菩薩摩訶薩。及諸大士。善男子等。如我  
惟忖。今仏世尊。欲説大法。雨大法雨。吹大法螺。擊大法鼓。  
演大法義。諸善男子。我於過去諸仏。曾見此瑞。放斯光已。  
即説大法。是故當知。今仏現光。亦復如是。欲令衆生。咸得聞  
知。一切世間。難信之法。故現斯瑞。諸善男子。如過去無量無  
辺。不可思議。阿僧祇劫。爾時有仏。号日月燈明如來。応供。  
正氣知。明行足。善逝。世間解。無上士。調御丈夫。天人師。  
仏。世尊。演説正法。初善。中善。後善。其義深遠。其語巧妙。  
純一無雜。具足清白。梵行之相。為求声聞者。説応四諦法。度  
生老病死。究竟涅槃。為求辟支仏者。説応十二因縁法。為諸菩  
薩。説応六波羅蜜。令得阿耨多羅三藐三菩提。成一切種智。次  
復有仏。亦名日月燈明。次復有仏。亦名日月燈明。如是二万

# 法華経 日めくり

釈尊降誕会

令和5年 癸卯

2023年

4月

8日

先勝 房

旧閏2月18日

土曜

妙法蓮華経序品第一

あ の く た ら さん み や く さん ぼ だい

阿耨多羅三藐三菩提

「この上なく勝れた仏さまの智慧」

「阿耨多羅三藐三菩提」は前にも紹介しましたが、さらに詳しく解説します。

「阿」は「無」、「耨多羅」は「上」、「三藐」は「正しい」、「三」は遍く、「菩提」は「智慧」を意味し、漢語に訳すと「無上正遍知」となり、仏さまのこの上ない智慧となります。

すべての事象に広く深く行き渡り、偏らず平等に、変化にも対応できる、物事を正しく見極められる最高の智慧ということなのです。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

4月

9日

友引 心

旧閏2月19日

日曜

妙法蓮華経序品第一

じょう いっ さい しゅ

成一切種智

「一切種智を成ず」

「一切種智」とは、一切のものについてその中に秘められている真実の姿を観察煩惱を破ることが出来る仏さまの最高の智慧です。

「一切種智を成ず」とは、「阿耨多羅三藐三菩提」というこの上ない仏さまの智慧が正しくすべてに行き渡り、人それぞれの境遇や因果を承知した上で、救いの手を指し伸ばし導くことができるということ。そして「一切種智」は私たちが目指すところでもあるのです。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

4月

10日

先負 尾

旧閏2月20日

月曜

妙法蓮華経序品第一

皆かい同どう一いち字じ

「皆同じなの仏さま」

過去に二万代にも亘り「日月燈明仏」という同じ名前の仏さまが現れた時代がありました。

仏さまが説く真実の教えは唯一無二のものであり、同じ徳を具えて大慈悲をもって人々をお救いになります。

仏の智慧によって一切の人の心を照らし、闇を取り除くという名の「日月燈明仏」が、代が変わっても変わることなく、人々を照らし続けたことを「皆同一字」は表しています。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

4月

11日

仏滅 箕

旧閏2月21日

火曜

妙法蓮華経序品第一

八王子

はち おう じ

「最後の日月燈明仏の八人の王子」

二万の日月燈明仏の最後の日月燈明仏が出家以前にもうけた八人の王子のこと。

八人ともそれぞれに広い領地を治める王となっていました。父王が悟りを開き日月燈明仏となったのを知り、皆王位を捨て出家します。

父の日月燈明仏が涅槃した後に八王子は、妙光菩薩を師として法華経を学び、八十小劫という長い間修行を積み、皆仏に成ります。

親子師弟の深い縁につながる物語です。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

4月

12

日 水曜

大安 斗

旧閏2月22日

妙法蓮華経序品第一

発ほつ大だい乗じょう意い

「大乘の意を発し」

「小乗」は自分の悟りを優先する小さな乗物、「大乘」はすべての人が救われる大きな乗物といわれます。

しかし、小乗でも自分が悟れば周囲も感化され救われていくものです。

大乘が小乗と違うところは、仏に成るまでは修行をやめない、少しばかり悟ったからといって満足せず、決して心をゆるめないことです。不退転の心で仏に成る、それが大乘です。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

4月

13日

赤口 女

旧閏2月23日

木曜

妙法蓮華経序品第一

常じょう修しゆ梵ぼん行ぎょう

「常に梵行を修め」

「梵行」とは清らかな迷いのない行いのこと。

出家者が自らを戒め、集団生活の決まりを守り、悟りを目指す仏教の修行生活そのものを指しています。

自分を中心に考えているうちは、身も心も清らかなにはなれないものです。

自他双方からの縛りによって、自らを律して、常に清らかで迷いのない行いができるようになるように努めましょう。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

4月

14日

先勝 虚

旧閏2月24日

金曜

妙法蓮華経序品第一

植じき諸しよ善ぜん本ほん

「諸々の善き手本を植える」

善悪の判断は立場によって正反対になることもあります。

自分のものさしで測れば、自分の都合のよい方に傾くのは当然です。

仏さまのものさしで測れば、誰もが納得できる目盛りには落ち着くでしょう。

一切衆生の苦しみを自分の苦しみとして、それをすくために尽くす慈悲。それが仏さまのものさしで測る善悪の手本です。

妙法蓮華經。序品。第一

令得阿耨多羅三藐三菩提。成一切種智。次復有仏。亦名日月燈明。亦名日月燈明。如是二万仏。皆同一字。号日月燈明。次復有仏。亦名日月燈明。如是二万仏。皆同一字。号日月燈明。又同一姓。姓頗羅墮。弥勒当知。初仏後仏。皆同一字。名日月燈明。十号具足。所可説法。初中後善。其最後仏。未出家時。有八王子。一名有意。二名善意。三名無量意。四名宝意。五名增意。六名除疑意。七名響意。八名法意。是八王子。威徳自在。各領四天下。是諸王子。聞父出家。得阿耨多羅三藐三菩提。悉捨王位。亦随出家。發大乘意。常修梵行。皆為法師。已於千万仏所。植諸善本。是時日月燈明仏。説大乘經。名無量義。教菩薩法。仏所護念。説是經已。即於大衆中。結跏趺坐。入於無量義処三昧。身心不動。是時天雨。曼陀羅華。摩訶曼陀羅華。曼殊沙華。摩訶曼殊沙華。而散仏上。及諸大衆。普仏世界。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

4月

15日

友引 危

旧閏2月25日

土曜

妙法蓮華経序品第一

み ぞう う

未曾有

「今までにないほどの素晴らしい教えや功德」

「未曾有」とは「未（いま）だ曾（かつ）て有らず」と訳し、非常に珍しいことを意味します。

昨今「未曾有の危機」「未曾有の災害」など否定的な表現に用いられることも多いようですが、天から華がふりそそぎ、大地が六種に震動するなど、仏さまが真実の教えを説く前に現れる「奇瑞」を未曾有の出来事としてとらえ、仏典では「今までにないほどの素晴らしい教えや功德」という意味で使われています。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

4月

16日

先負 室

旧閏2月26日

日曜

妙法蓮華経序品第一

みよう こう ぼ さつ  
妙光菩薩

「文殊と弥勒の過去世の縁」

「妙光菩薩」は文殊菩薩の過去世における菩薩。二万人目の日月燈明仏から法華経の教えを受け継ぎ、法華経の理解が最も深い菩薩でした。日月燈明仏が法華経を説き終わり入滅した後、八百人の弟子を教化し、日月燈明仏の八王子も妙光菩薩の弟子となり、その一人が現世で弥勒菩薩となる求名菩薩でした。過去世からの深い縁で法華経に出会えたことを示すエピソードです。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

4月

17

日

仏滅 壁

旧閏2月27日

月曜

妙法蓮華経序品第一

みようほうれんげ

妙法蓮華

きようぼさつぼう

教菩薩法

ぶつしよ ごねん

仏所護念

「仏の悟りの大事なことを直接打ち明けた教え」

「妙法蓮華経」は文字で書かれた經典のこと。

「妙法蓮華教」は仏が自ら信じていることをそのままに説かれた教えのことです。

文字や言葉だけでは伝えきれない仏の悟りの大事なことを弟子に直接打ち明けた教えであり、菩薩のための教えということです。

仏所護念とは、法華経が仏が護る大事な教えであり、また法華信者を仏が護ってくださいとうことを示しています。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

4月

18日

大安 奎

旧閏2月28日

火曜

妙法蓮華経序品第一

聴仏所説

謂汝食頃

ちようぶつ しよせつ

い によ じつ きよう

「仏の教え聴く時間は食事をするほどだった」

日月燈明仏が法華経を説かれた時間は、六十小劫という量り知れないほど長い時間でした。

その間、聴衆は身心動じることもなく、食事をするような短い時間にしか感じませんでした。

心のはたらきにおいては、百年間のことも一瞬で思い描くことができ、狭い部屋の中でも宇宙全体のことを考えることもできます。

人の心がそうなのだから、仏さまの悟りさらに時間も空間も超越するものだという事です。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

4月

19日

赤口 婁

旧閏2月29日

水曜

妙法蓮華経序品第一

而生懈怠

「懈怠を生ずることなく」

「懈怠」とは、怠け心が生じ、くたびれてしま  
うこと。

何かに夢中になっているときには、くたびれた  
り、嫌になるということはいらないと思います。

危険が伴う仕事をしていても、集中している瞬  
間には疲れを感じないものです。

心にゆるみが出たとき、油断が生じたときに  
「懈怠」が生まれるのです。

仏道も夢中になり集中して歩みたいものです。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

4月

20日

穀雨 先負 胃

旧3月1日

木曜

妙法蓮華経序品第一

無余涅槃

「完全なる涅槃」

仏さまが教えを説いた後にこの世から姿を消すことを「涅槃」あるいは「入滅」です。

小乗仏教では、迷いの火を消した状態を涅槃といい、生きている間に得られる涅槃は肉体や煩惱の条件を残しているので「有余涅槃」、死によって「無余涅槃」に至るといわれ、これを灰身滅智（けしんめつち）といいます。

仏さまの心身は消滅しても、その悟りと救いは永遠に存在するということです。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

4月

21日

仏滅 昴

旧3月2日

金曜

妙法蓮華経序品第一

ただあかだ あらか さんみやくさん ぶつだ

多陀阿伽度 阿羅訶 三藐三仏陀

「仏さまの尊称」

「多陀阿伽度」は「如来」（いつでもそばにいる  
仏さま）の梵語の音写、「阿羅訶」は「応供」（供  
養するに値する仏さま）の梵語の音写、「三藐三  
仏陀」は「正遍知」（正しくあまねく知る仏さま）  
の梵語の音写。

如来の十号のうち最初の三号です。

他の七つは省略されていますが、仏さまいつも  
私たちを導いてくださる尊い存在として、心の  
なかでは常に徳を讃え敬いましょう。

妙法蓮華經。序品。第一

是諸大衆。得未曾有。歡喜合掌。一心觀仏。爾時如來。放眉間白毫相光。照東方萬八千仏土。靡不周氣。如今所見。是諸仏土。彌勒當知。爾時會中。有二十億菩薩。樂欲聽法。是諸菩薩。見此光明。普照仏土。得未曾有。欲知此光。所為因縁。時有菩薩。名曰妙光。有八百弟子。是時日月燈明仏。從三昧起。因妙光菩薩。說大乘經。名妙法蓮華。教菩薩法。仏所護念。六十小劫。不起于座。時會聽者。亦坐一処。六十小劫。身心不動。聽仏所說。謂如食頃。是時衆中。無有一人。若身若心。而生懈倦。日月燈明仏。於六十小劫。說是經已。即於梵魔。沙門。婆羅門。及天人。阿修羅衆中。而宣此言。如來於今日中夜。當入無余涅槃。時有菩薩。名曰徳蔵。日月燈明仏。即授其記。告諸比丘。是徳蔵菩薩。次當作仏。号曰淨身。多陀阿伽度阿羅訶三藐三仏陀。仏授記已。便於中夜。入無余涅槃。仏滅度後。妙光菩薩。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

4月

22日

大安 畢

旧3月3日

土曜

妙法蓮華経序品第一

ごう わつ ぐみよう

とんじゃくり よう

## 号曰求名

## 貧著利養

「名を求め、利に執着する」

凡夫は名誉と利益を求めます。

「求名」(名を求める)と名づけられた妙光菩薩の弟子は經典を読んでも忘れるばかりでした。

名が欲しい、お金が欲しいと考えている間は、どれほど尊い教えを聞いても、自分の都合、自分の利益になることしか耳に入りません。

全部を理解せず、自分の都合に合わせて切り取って理解すると、身に付かないだけではなく、曲解して害にもなってしまうのです。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

4月

23日

赤口 鶯

旧3月4日

日曜

妙法蓮華経序品第一

種しゆ諸しよ善ぜん根こん因いん縁ねん故こ

「諸々の善根を植えた因縁の故に」

求名は、自分の都合で行動してしまいう欠点を認め、多くの仏さまにお仕えしました。

自分は凡夫だから欠点があるのは仕方がない、しかし欠点に気づき、心を改めことによって、求名は菩薩として善根を積みました。

弥勒菩薩が求名菩薩、求名の師であった妙光菩薩が文殊菩薩であったときの二人の前世と同じ瑞相が現れて、お釈迦さまが法華経をお説きになるのをともに待っているのです。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

4月

24日

先勝 参

旧閏3月5日

月曜

妙法蓮華経序品第一

令りよう入にゆう仏ぶつ智ち慧え

「仏の智慧に入らしめる」

智は変化を見つめそれを分析する力、慧は変化の中でも変わらない普遍的な価値を見出す力だといわれています。

自分の意見だけを優先すると他者と対立します。共通点を見つけ、お互いが納得できる着地点を探すことで平和が築かれます。

すべての衆生を平等に見つめ、違いを認め、それぞれの機根に合わせて導いてくださるのが仏さまの智慧なのです。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

4月

25日

友引 井

旧3月6日

火曜

妙法蓮華経序品第一

而に為い広こう分ぶん別べつ

「広く、わかりやすく説く」

「分別」とは、わかりやすく説き分けること。それを広く大勢の人に伝えるのが仏さまです。しかし、相手の理解力に応じて言葉を選び、難しいことを易しく説くのは至難の業です。また、分かりやすく伝えようとしても、受け手が心を開かなければ伝わりません。難しいお経も毎日読んでいると、私たちが救いたいという仏さまのお気持ち少しづつ伝わって来るように思います。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

4月

26日

先負 鬼

旧3月7日

水曜

妙法蓮華経序品第一

天てん鼓く自然じ鳴ねん  
自然ねん鳴みよう

「天の鼓が自然に鳴る」

仏教語の「自然」(じねん)とは「おのずからしかなり」という訓読みのおり、それ自体で存在するもの、理想的なあり方、「ありのまま」ということを表しています。

天の鼓(つづみ)が自然(じねん)に鳴るとは、天界の神々や龍神・鬼神も皆、これから仏さまが尊い教えを説かれ導かれ、大勢の人が救われることに心の中から感激していることを表すものです。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

4月

27

日

仏滅 柳

旧3月8日

木曜

妙法蓮華経序品第一

しょう じ ぎょう ほう しょう  
生死業報処

「生まれてから死ぬまでの業と報」

「業」とは、生まれてから今までの一切の行い、「報」は業による結果のこと。

現在起きていることは、過去の業による報であると考え、業と報は生まれてから死ぬまでずっと続いていくということになるのです。

自分のこれまでの行いが善ければ未来も善く、悪い行いをしていけば未来も悪くなります。

今、法華経に出会ったという「業」が善い「報」になるようにと善業を重ねましょう。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

4月

28日

立教開宗会

大安 星

旧3月9日

金曜

妙法蓮華経序品第一

自然成仏道

「自然に仏道を成じ」

「自然」(じねん)とは「ありのまま」「本来から具わっている」の意。

仏典には、どんな人間も仏に成る性質を持ち合わせていることが説かれています。

その本来具わっている性質を大切に育ていくと仏に成れるというのです。

種から芽を出し、花を咲かせるためには、水や光が必要です。仏に成れる身である自分も他者も軽んじることなく日々を過ごしましょう。

妙法蓮華經。序品。第一

八百弟子。中有一人。号曰求名。貪著利養。雖復誦誦衆經。而不通利。多所忘失。故号求名。是人亦以。種諸善根因緣故。得值無量百千万億諸仏。供養恭敬。尊重讚歎。彌勒當知。爾時妙光菩薩。豈異人乎。我身是也。求名菩薩。汝身是也。今見此瑞。与本無異。是故惟忖。今日如來。當說大乘經。名妙法蓮華。教菩薩法。仏所護念。爾時文殊師利。於大衆中。欲重宣此義。而說偈言

我念過去世 無量無數劫 有仏人中尊 号日月燈明 世尊演說法 度無量衆生

無數億菩薩 令入仏智慧 仏未出家時 所生八王子 見大聖出家 亦隨修梵行

時仏說大乘 經名無量義 於諸大衆中 而為広分別 仏說此經已 即於法座上

跏趺坐三昧 名無量義処 天雨曼陀華 天鼓自然鳴 諸天龍鬼神 供養人中尊

一切諸仏土 即時大震動 仏放眉間光 現諸希有事 此光照東方 万八千仏土

示一切衆生 生死業報処 有見諸仏土 以衆宝莊嚴 瑠璃頗黎色 斯由仏光照

及見諸天人 龍神夜叉衆 乾闥緊那羅 各供養其仏 又見諸如來 自然成仏道

身色如金山 端嚴甚微妙 如淨瑠璃中 内現真金像 世尊在大衆 敷演深法義

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

4月

29日

昭和の日

赤口 張

旧3月10日

土曜

妙法蓮華経序品第一

猶ゆ如によ護ご明みよう珠じゆ

「なお、明珠を護るが如くあり」

今は凡夫でも、仏さまの教えを学び、悟りを求めるのであれば、日々の言動を慎んでいかなければなりません。

私たちは、周囲に何らかの影響を与え合って生きています。何気ない一言が、相手を救ったり、場合によっては傷つけたりします。

だからこそ、仏さまの教え（明珠＝宝石）を護るように、一挙手一挙動を大切に振舞わなければならぬのです。

# 法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

4月

30日

先勝 翼

旧3月11日

日曜

妙法蓮華経序品第一

説せつ法ぽう求ぐ仏ぶつ道どう

「法を説いて仏道を求む」

仏さまの教えを学び、自分一人が悟っただけでは仏に成れません。

自分が悟ったら人も悟らせる努力をすることによって、足りないところが見えてきます。

「法を説いて仏道を求む」とは、教えを人に弘めることによって、自分の智慧も大きくなり、振舞いも身に付き、仏の境界に達するということです。説法は人のためでもあり、自分のためでもあるのです。

妙法蓮華經。序品。第一

我念過去世	無量無數劫	有仙人中尊	号日月燈明	世尊演說法	度無量衆生
無數億菩薩	令入仏智慧	仏未出家時	所生八王子	見大聖出家	亦隨修梵行
時仏説大乘	經名無量義	於諸大衆中	而為広分別	仏説此經已	即於法座上
跏趺坐三昧	名無量義処	天雨曼陀華	天鼓自然鳴	諸天龍鬼神	供養人中尊
一切諸仏土	即時大震動	仏放眉間光	現諸希有事	此光照東方	万八千仏土
示一切衆生	生死業報処	有見諸仏土	以衆宝莊嚴	瑠璃頗黎色	斯由仏光照
及見諸天人	龍神夜叉衆	乾闥緊那羅	各供養其仏	又見諸如来	自然成仏道
身色如金山	端嚴甚微妙	如浄瑠璃中	内現真金像	世尊在大衆	敷演深法義
一一諸仏土	声聞衆無數	因仏光所照	悉見彼大衆	或有諸比丘	在於山林中
精進持浄戒	猶如護明珠	又見諸菩薩	行施忍辱等	其数如恒沙	斯由仏光照
又見諸菩薩	深入諸禪定	身心寂不動	以求無上道	又見諸菩薩	知法寂滅相
各於其国土	説法求仏道	爾時四部衆	見日月燈仏	現大神通力	其心皆歡喜
各各自相問	是事何因縁	天人所奉尊	適従三昧起	讚妙光菩薩	汝為世間眼